


日本語と中国語の妖しい関係

～中国語を変えた日本の英知～



AERA

『日本語と中国語の妖しい関係』
松浦喬二著
(1800円+税/日本僑報社)

「創建社会主義国家（社会主義国家を創建しよう）」
毛沢東による中華人民共和国の建国宣言に出てくるこのフレーズの中に、日本製単語がいくつも含まれているか？正解は、何と全てが日本製単語なのだという。

実は、現代中国が使っている、漢字で表現する単語のうち、特に科学技術、近代哲学、思想、人文科学、社会科学に属するものかなりの部分が

日本製単語だということ。この事実を、日本人も中国人もほとんど知らない。

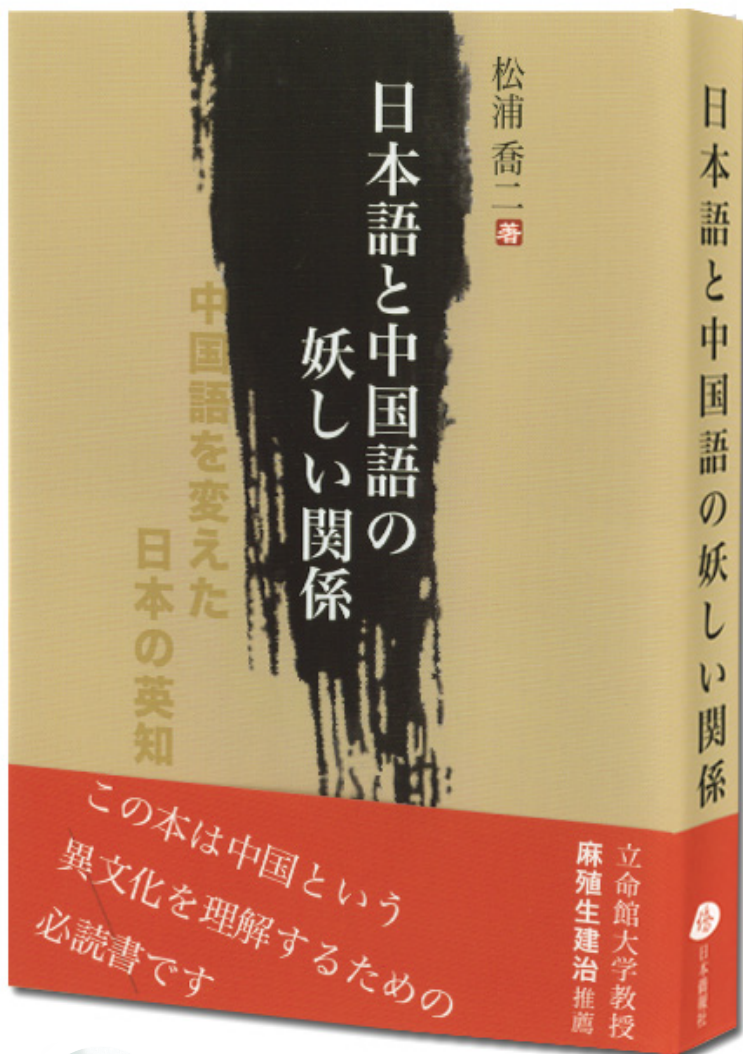
本書の著者は、30年間にわたり日中間の経済交流の場で働いてきた。尖閣問題で日中間は緊張が続いている。日本と中国の関係をもう一度、日本語、中国語という言葉、文字の問題にまで遡って検証することで、現在の問題を解決する一助にしたい、との著者の訴えは示唆に富む。（祐）

2013.07.15AERA

■ことばと文字から日中問題を検証するユニーク書籍

「漢字は中国人が作り、現代中国語は日本人が作った！中国語の中の単語のほとんどが日本製であるということを知っていますか？」と問いかけるこの書は、中国で生まれ、中国語を専門とし、過去30年にわたり日中経済交流を推し進める活動をしてきた筆者の手によるもの。

松浦喬二・著
日本僑報社 ISBN 978-4-86185-149-0



■中国からの漢字の輸入が、日本の文化を飛躍的に発達

近代に至り西欧の文化を吸収するための日本語の新造語、新単語は日本で作られたが、それを中国が10万人に及ぶ留学生を日本に派遣し持ち帰りそのまま中国で使い出した。このためこれらの単語、熟語無しには現代中国語が成り立たないという事実。

本書は日中問題をもう一度日本語と中国語という言葉、文字の問題にまでさかのぼって検証し、今後の日中問題をどう解決すべきかという大問題について問題提起の一助となればと筆を執った」と、著者は本書「はじめに」で述べている。

■日中関係の歴史から文化、そして現在の日中関係までを検証


一般的な文化論でなく、漢字という観点に絞つつ、日中関係の歴史から文化、そして現在の日中関係までを検証した非常にユニークな一冊である。

人生丸ごと中国語と関係してきたような筆者の体験なども絡めつつ展開する文章は、少々口が悪いが、日本・中国、双方に対しての愛情があふれている。



著者略歴：松浦喬二、1937年、旧満州国吉林省生まれ。1945年に大連で終戦をむかえる。父が鉄道技術者だったため、1953年まで中国に留まる。日本の高校、大学を卒業し、英国系出版社に就職するも1980年に倒産。1982年自らの原点に立ち戻るべく単身中国へ。コンサルタント会社（株）槐樹を設立し、多くの日本企業の中国進出に顧問として携わっている。

ご注文は、日本僑報社 e-shop (中国研究書店)、アマゾンなどをご利用いただくか、またはこのチラシを書店にご提示ください。(トーハン 日販 その他 取次コード：5752)

 <p>おかげさまで20周年 since1996</p>	<p>日本語と中国語の妖しい関係 ISBN 978-4-86185-149-0 発行日：2013年7月8日 四六判 220頁 並製 定価：本体1800円+税</p>	<p>注文部数</p>	<p>ご注文 / 番線印</p> <p>ご注文の方は、注文部数、住所 〒、氏名、電話番号をご記入ください</p>
	<p>日本僑報社 e-shop http://duan.jp</p>	<p>部 (送料無料)</p>	
<p>送信 FAX 03-5956-2809</p>			